

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901431		
法人名	有限会社 ポブラ		
事業所名	グループホーム あじさい		
所在地	旭川市春光4条9丁目6-12		
自己評価作成日	H25年1月30日	評価結果市町村受理日	平成25年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2011\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0172901431-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901431-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階		
訪問調査日	平成 25 年 2 月 20 日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様には、元気に明るく穏やかに日々を過ごして欲しい。清潔で臭いのない施設。気持ちの良い施設。職員は、利用者様の疾患別対応の出きるように日々研鑽している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームへ訪れた家族は、職員が何時も笑顔で明るく迎えて頂き、利用者へも家族同様に優しく接しているため利用者が穏やかに明るい表情になっていると感謝しており、法人代表や職員へ高い信頼感を寄せています。グループホームの存在が一般的でなかった平成15年に開設したホームは、代表や職員による地域との交流を深めようと努力してきた成果がホーム主催のあじさい祭りに表れています。多数の住民が参加して利用者と共に楽しみ、高校生の太鼓演奏やボランティアによるチンドン屋実演などの慰問も多く、地域と一体感のあるホームに育っています。ホームの内部は、明るく居心地の良い居間兼食堂、全身シャワーのある浴室やゆりのあるトイレ、大収納クローゼットがある広い居室など利用者にとって暮らしやすい住み家となっています。さらに、管理スペースも事務室の他に職員休憩室や相談室の存在など職員にとって働きやすい職場環境が利用者への明るく優しいサービスへ反映されているホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲げた理念を現実に出きるように壁に張り出し、職員や訪問者などの目に触れる様に意識しながら業務している	愛と社会福祉をキーワードとするホーム独自の理念を持ち、ホーム内に掲示すると共にミーティング等を通して理念の確認と理念を意識したサービスに務めるよう努力しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の生活の中で、周辺の散歩、買い物やイベントの時に周辺の方々に声掛け交流を図って顔見知りや馴染みの関係を築けるようにしている。	周辺住民との日常的挨拶や町内会行事へ参加し、ホーム主催のあじさい祭りには利用者と家族以外に多数の地域住民も参加して楽しんでおり、地域行事になっています。高校生やボランティアの慰問も多く、地域との交流が進んでいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議やイベントの時に出席して頂き、交流を持っていただき理解していただくように努めている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際に事業所内の出来事、変化を報告し意見をお聞きしたり、アドバイスを頂きサービス向上にいかせるように努めている	運営推進会議は、ホーム関係者以外に市職員や地域包括支援センター職員、町内会関係者、民生委員など多数参加して定期的に開催しています。会議では、看取りなどテーマを決めて開催し、参加者からの意見等をホーム運営に反映させています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市介護保険課から運営推進会議に参加して頂きその際にホームの実情、ケアに対する考え方などを知って頂いたり、わからない点、不明の点などは電話をして聞くなど協力し合える関係を築いている。	ホーム運営に関する相談や情報交換は電話や郵送で行っていますが、会議等に市職員の参加も多いため、その際に代表者やケアマネージャーと話し合いをしており、行政との協力関係が築かれています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束に関する3要素である内容を常に意識し職員間で問いかけあいながらケアにあっている。玄関などは日常から施錠は行っていない。	ホームには身体拘束廃止委員会が設置されており、職員は身体拘束の無いケアの重要性について関連のマニュアルや資料を参考にしながらミーティングや申し送りを通して理解し、実践に取り組んでいます。玄関の施錠も夜間のみです。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修などに職員は自主参加し研鑽に努め職員間で研修内容を共有し理解出来るように努めて実務に生かせるようにしている。又職員間で問いかけあいながら日々ケアに勤めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は各研修に参加し、機会あるごとに職員に研修内容を伝えている。職員は研修に参加し各々研鑽に努めている。研修内容を職員間で伝え合ったり話あったりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様と契約や解約の時はご家族様と十分に説明し話しあって理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望を管理者や職員に伝えられるような雰囲気を作るように心かけ家族と話合えるようにしている。家族会開催時には、自由に意見を出せるようにし運営に反映できるように努力している。	家族のホーム来訪回数が多く、その際に家族が話しやすいような雰囲気づくりに努めています。また、年2回開催の家族会で利用者の様子を伝えたり意見や要望を聞くようにしています。意見や要望等は、申し送りやミーティングで話し合いながら運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、朝の申し送りや、月1回のミーティング時に意見を求めたり促したりし意見に耳を傾けている。	代表者や計画作成者と職員間のコミュニケーションは良好で、日常業務やミーティング等で自由に話し合いを行い、意見や提案等があれば協議しながら運営に活かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は毎月の職員の勤務表や勤務実績などを把握し、個人の能力や技術向上のために研修や講習の受講を勧めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の技術力、能力の把握に努め技術講習や研修の受講を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と勉強会グループに参加し、知識の向上に努めると共に同業者連合主催の勉強会などを開催しサービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学時の来訪時や入所希望時の面談などの時に今までの生活歴や生活環境の把握、現在困っている事や不安な点などを傾聴し、お話し合う事により不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約する際に、家族に時間を掛け説明をし話を傾聴する中から不安や要望している事を汲み取ったり尋ねたりして関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望時、入居時に管理者、計画作成者介護リーダーが家族と話し合いを行い、今、一番困っている事を見極め、サービスを提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、各個人の出きることを見極める目をもち職員間で、話し合いできる事をお願いしたり、本人からの希望を受け入れ手伝っていただいたりアドバイスしあったりしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院の支援などは、家族様と連携を取り交代で通院する事により、本人の状態を知って頂いたり、日頃の様子を面会時に伝えたり、面会時に居室にてお茶を飲みながら会話の時間を楽しみ家族と共に本人との関係を共に支えていけるように支援している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人などの電話のやり取りの取次ぎをしたり、テレビやラジオなどからの情報に出身地と重なるときなどは、声かけし伝えてコミュニケーションを取り思い出せるように配慮したりしている。	利用者の高齢化と介護度のアップが進んでいるため、希望の場所への外出も少なくなっていますが、電話等の連絡支援や家族や知人等が面会に来訪した際は歓迎し、気楽に利用者として過ごせるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や個性を把握し入居者様同士の係わり合いなどを観察し相性なども考慮し食事の席を決めたりゲームの組み合わせなどを行っている。又お手伝いをしてくださる時等は臨席同士の話が弾むように仲介をしたり話しかけ一体感を感じてもらえるように支援している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入院中の方へのお見舞いや事情により洗濯などの支援をしたり、家族の希望により他機関への紹介、相談に乗っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から思いや意向を聞き取り意に沿うように支援している。本人が思いを表現できない様子の場合は日々の生活などを観察し、アセスメントを重点的に取る事により思いを理解するようにしている。	家族からの情報や利用者の基本情報などを参考に、日常のケアサービス時における利用者の反応や仕様、表情などを見ながら意向や想いを把握するようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族などからこれまでの生活歴を傾聴し家族などから意見を聞いたりこれまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が関わる中から1人1人の思いを探り話し合いを持ち、状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に関わる人たちとカンファレンスをし課題やケアに付いて話し合い意見交換し計画を立てている。定期的な計画の見直し、状態の変化や新たな問題発生時にはアセスメント、モニタリングをし計画の見直しをしている。	毎日の記録ノートやミーティングで利用者の様子を検討し、毎月1回、夜間に全員参加のカンファレンスで利用者のケアプラン変更等を協議しています。ケアプラン見直しには、家族や関係医療機関とも事前に相談して利用者の状態に即したプランを作成し、全職員の共有にしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人のケース記録に日々の様子を記録し、都度の対応の結果を連合しているか確認してモニタリングにつなげられるように努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各個人の状態の変化に伴い必要時にカンファレンスを開きニーズに対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各個人個人の家族からの要望に応えるように努力し、地域の理美容院を利用している。地域のイベントなどの参加し楽しみを見出して戴く様にし、消防訓練時には地域の方々にも参加していただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に掛かりつけ医を把握し受診を継続している。新規受診の必要時には、家族と相談し了解の元受診している。受診時は職員や家族が同行して結果を報告したり共に結果を聞き今後の対策などを立てている。医療連携の病院により毎週訪問してバイタルチェックを行っている。	従来からのかかりつけ医受診や利用者の状態に応じて随時、協力医療機関の訪問診療を受けています。ホームへの定期訪問診療は行っていませんが、今後の実施について計画中です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携、各個人のかかりつけの看護師さんと変化時には連絡を取り相談し指示を戴くなどの連携をとっている又必要時には主治医と連絡を取っていたき対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、病院へ個人の状態の情報を提供し、経過を病院関係者、家族と相談しながら早期回復、早期退院へ向け支援している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族のキーパーソンさんに重度化したときのことを想定しどのようにするか考えているかを必要時に話し、今後のことを共に話し合う機会を持っている。必要に応じて主治医、家族と病院関係者などと話し合いの場を持ち支援体制を取っています。	ホームは、利用者の終末期も受け入れており、家族へも指針を説明して同意書を頂いています。過去に看取りの事例もあり、職員は実務経験や看取り関連資料と勉強会等を通して方針を共有し、適切な看取り支援体制ができるよう努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡先などは個人のファイルに添付し連絡、対応できるようにしている。消防訓練時に救命救命の仕方の講習を受け実践できるように心掛けている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は消火器、火災報知器の場所の確認を行い、避難場所の確認を行っている。又火災訓練時は近隣の方々にも声掛けをし参加して頂いている。	運営推進会議の住民メンバーも参加して年2回避難訓練を実施しています。職員も災害時の対応策について周知徹底するよう努めており、救命救急訓練も受けています。	災害時に備えた備蓄品も飲料水など一部ありますが、さらに、停電や地震などの災害に必要とされる備蓄品を順次、揃えて充実すること期待します。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各々個室にて生活している為プライバシーは保たれている。又職員は尊厳を持って対応するように心掛けている。	職員は、利用者の呼称や日常のケアサービスの際に、人格の尊重や誇りを傷つけないよう配慮しながら支援しています。各種記録類の管理やプライバシー保護関連も適正に行われています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望には耳を傾け思いを告げられるように働きかけている。又言葉では表せない表情、体動等を観察し声かけし思いを引き出せるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の体調に合わせ食事の時間をずらして食べていただいたり、ゲームなどの参加も強要しないようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容師さんに来訪して頂きカットしていただいたり指の爪にマニキュアをしたり、コーディネートのアドバイスをしたりしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの下準備のお手伝いをしていただきながら今日の献立を話合ったり、作り方を聞いたりしている。食後は食器を掲げてくれたり、テーブルを拭いてくれたりしている。	職員は、利用者の好みや栄養バランスを配慮して献立を考え、季節の行事食や誕生会などに工夫して変化に富んだ食事内容にしています。利用者は、高齢化と介護度のアップから食事関連の手伝い等は困難になってきていますが、食事中は職員と話し合いながら和やかに過ごしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人の摂取量の把握に努め、各々に合った量を見極め毎回お出しするようにしている。又各個人に合った形態にお出ししたり、その日の体調を見極め、量、柔らかさなどを考慮してお出ししている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアのために洗面所への誘導を行い本人が出来ない部分の介助を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の排泄パターンの把握に努めトイレへ誘導するように心がけている。	利用者一人ひとりの排泄パターンをチェックして、時間間隔や利用者の表情や行動を注意深く見守りながらさりげない声掛け誘導でトイレ排泄に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を排泄表に記し、排便状況の把握に努めている。食後のデザートなどにヨーグルトを多く使用したり便秘によいサツマイモやバナナなどをおやつに使用するように心がけている。おやつの時間前に体操なども取り入れている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応入浴日は決めていますが、体調により別な日に変更したり個人の希望の時間帯や順番に入浴するなど柔軟に対応している。又希望によりシャワー浴での対応も行っている。	利用者の身体清潔維持のため週2回以上の入浴を基本としていますが、利用者の反応に応じて時間や入浴日の変更、全身シャワー浴設備の利用など、無理をせず柔軟に支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個人の使い慣れたフトンを使用しており、冬季には希望により湯たんぽなどをしようして頂き安眠できるように配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々のケース記録に薬に関する説明書を添付し何時でも確認できるようにし、内服薬の準備をする時は、2重に確認するシステムをとり、内服時には人物と薬袋の名前を声に出して確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の希望に沿いゲーム、唄を歌うときなどに希望を聞き楽しめるようにしたり、その日のレクリエーションの内容を希望で決めたりしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各自各々の思いを聞き散歩コースを決めたり、日光浴をしたり、家族との外出、外泊も希望に沿って行なっている。	大部分の利用者が車椅子利用のため、遠くへの外出は困難ですが、天候の良い時期には利用者全員がホーム周辺の散歩や住宅の花壇見学に出かけたり、玄関前で外気浴を楽しんでいます。冬期間は、ホーム内で体操や歩行訓練など身体を動かすよう努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理出さる方々にはご家族との話し合いの上、イベントや買い物に行った時に本人の希望を聞き買い物を楽しんでいただいている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親戚や子供たちからの電話には、電話の子機を使って居室内で会話できるように配慮しています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内から見えるところで、出入りに邪魔にならず危険な場所を避け季節の花鉢を置いて楽しんでいます。又建物の周囲の花壇に季節の花が咲くようにして楽しんでもらっています。	ホーム内は総じて空間にゆとりがあり、全身シャワー設備のある浴室と上下移動可能な洗面台設置、ゆったりしたトイレや広い廊下があります。居間兼食堂には利用者の手作り作品や季節の飾りがある家庭の雰囲気居心地良く過ごしています。共有スペース以外に広い事務室、職員休憩室、相談室もあるため、運営面にも便利で職員にとっても働きやすいホームです。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内のソファなどに座っている時、隣り合った方々と談笑している。又話合えるように会話の仲介をしたり話題を提供して、楽しめるように配慮している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個人の部屋には、本人の馴染みの家具などを家族が配置して、安心して過ごせる場所としている。	居室は広くて明るく、幅の広いクローゼット設置によって室内の整理が非常に便利です。利用者は、馴染みの調度品を自由に配置し、家族の写真や手作り作品を飾りながらのんびりと安心して暮らしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自個室にて生活されていて、その中で、各自が自立した生活をするための配慮をしている。。起き上がりのためにベッドの手すりを利用したり、生活サイクルにあわせ夜間ポータブルトイレを設置したりしている。			